

令和2年度 経済建設委員会行政視察報告

●参加委員

委員長 田中 勇

副委員長 野島 義正

委員 藏成 幹也、村上 満典、宮川 英之、氏永 東光、尾上 頼子、部谷 翔大

1 視察年月日

令和2年8月27日（木）

2 視察先及び視察事項

(1) 国民宿舎秋穂荘について

- ・ 狹隘進入道路の安全確保策
- ・ 駐車場、駐輪場等の利用者利便性

(2) 漁業振興及び港湾関係事業について

- ・ 山口県漁業協同組合大海支店及び若手就業者からの聞き取り調査
- ・ 漁業振興策（新規就業者支援、販路拡大、市内消費、ブランド化等の取組）
- ・ 水産業振興・海洋資源活用事業
- ・ 海岸保全施設整備事業

(3) 畜産業と農業における市内での経済循環や流通システムについて

- ・ 飼料用トウモロコシの取組（現地視察含む）
- ・ 山口型放牧牛の取組とブランド化（現地視察含む）

3 視察概要

(1) 国民宿舎秋穂荘について（交流創造部観光交流課所管）

（視察目的）

令和2年の委員会一般質問において取り上げられた国民宿舎秋穂荘へ進入道路の安全確保策及び繁忙期に混雑する駐車場、サイクリスト対応としての駐輪場等の利用者利便性について調査したものです。

（概要）

高台にある施設への進入路は、カーブが連続するつづら折りとなっており、定時便を含むバスの乗入れがあるにも関わらず幅員は十分ではありません。安全対策としては、車両の転落防止策として5本のポストフレックス（オレンジ色のポール）を設置するとともに、

見通しの悪いカーブには1カ所にアドバンスミラーが設置されており、現状において、事故や利用者からの苦情等は生じていないとのことでした。

駐車場については、第1駐車場47台、第2駐車場18台、定時運行の路線バス用駐車場2台を整備しており、従業員の駐車位置を指定するなど利用者を優先した対応がとられています。

駐輪場については、市定住促進課が設置したサイクルスタンド1台（自転車6台駐輪可能）を設置しており、施設を訪れるサイクリンググループ等による利用に対応されています。

（主な所感）

- ・ 進入路に設置されているアドバンスミラーの多くは設置から相当年数が経過しており、改善が必要とされるものも少なくないのではないかと感じた。
- ・ 利用者が注意して運転されることで事故は起こっていないとのことだが、安全運転意識の醸成、スピードダウンの徹底を図る対策が必要である。
- ・ 不特定多数が来客する市の所有建築物への唯一の進入道路について、指定管理者が安心して管理できるように整備するのは市の責任であり、所管課の明確化、窓口の一本化によって必要な安全確保に対応すべきである。
- ・ 駐車場や駐輪場については利用者優先の目線で対応されており、引き続き利便性向上に努めていただきたい。
- ・ 施設への進入路は狭隘で急な坂道のため急カーブでは対向車が直前まで見えない箇所もある。またアドバンスミラーが設置してあるものの、古く小さいため見えにくい点については早急な改善が望まれる。繁忙期の対応のため駐車場の整備も急がれる。
- ・ 全体的には良好な状態にあると感じたが、安全対策については市及び指定管理者の責任や所管の明確化など、今後に向けた取組が必要と考える。



安全対策として設置されたアドバンスミラー

(2) 漁業振興及び港湾関係事業について

- ・ 山口県漁業協同組合大海支店及び若手就業者からの聞き取り調査

(調査目的)

本市の漁業振興策を推進するにあたり、新規就業者の確保に成功されている大海地域の現状や課題について、漁業者本人及び漁業協同組合担当者から率直な意見を聞き、今後の参考といたく意見交換を実施したものです。

(概要)

大海地域の漁業を牽引されている漁業者8名（近年の新規就業者及びベテラン漁業者）と、長年実務にも携わっておられる漁協協同組合支店長から漁業の現状や課題、新規就業時に大海地域を選択された理由などについて、対話形式で意見交換を行いました。

(聞き取り内容)

- ・ ここ十数年で北海道、神奈川、福岡、神戸等の他都道府県からの移住により新規就業されており、実績としては県内でもトップクラスである。
- ・ 大海を選んだ理由は、「東京での移住フェアで新規就業説明を受けた」「配偶者の実家があった」「山口県の就業支援（研修制度含む）に加えて市の家賃補助があるなど支援が充実していた」などがある。
- ・ 山口宇部空港にも近く、交通アクセスがいいので関東圏への帰省に便利。
- ・ 流通に関しては、県外（福岡）での評価が高く収益につながっているが、漁を終えて長距離の運搬をすることに肉体的な限界を感じている。
- ・ 防府市場に出荷するだけでなく、市内外での新たな流通システムの構築、ブランド化にも取り組まれている。
- ・ 市内流通も模索しており、市内外に展開するスーパーマーケットと連携しての商品開発、産地を紹介する販売コーナーなど設置されている。
- ・ 直売所を開いたことで、市内外の飲食店関係者の来店もある。魚種を豊富に揃えて、来店された方からの評価が上がるよう努めている。
- ・ 大海漁港にセリを行う市場を復活させたい。閉じる直前まで一般市民の見学者で溢れかえっていたので、観光資源（観光市場）として地元の農産物や加工品、マリンスポーツやイベント開催などの拠点にしたい。海、船、魚は普段親しみのない人にとっては魅力がある。輸送に係る負担も軽減され漁に集中できる。
- ・ 移住者が地域に住んで漁業がしたくても、賃貸物件がない。人は住んでいないが貸し出していない物件が多数（仏壇や荷物がある）。住居に関する支援が必要。

- ・漁師の高齢化が進んでいる。技術の継承にも取り組んでいる。新規就業者が中古の船舶や住居を取得できる仕組みがあるとよい。
- ・体が資本で危険が伴うため、高齢になりモチベーションとともに収入が下がるケースもある。それぞれが個人事業主なので個々の収入や生活水準は把握していないが、10年前と比較して漁師は減ったが水揚げは1.5倍になっている。乾燥ナマコの収入がかなりの割合を占める。
- ・宮野地域から通勤される方もいる（子どもが多い地域の選択）。



山口県漁業協同組合大海支店長・漁協者と経済建設委員の意見交換

(主な所感)

- ・引き続き県と市による新規就業者支援を行うとともに、若い就業者が定着し、組合員一丸となって販路拡大に意欲的な点などを積極的にPRすることで、さらなる誘致策を推進されたい。
- ・新規就業者が居住できる賃貸物件の不足は喫緊の課題である。研修生を受入れて育てても、就業にあたって他市に移住されるようではいけない。空き家バンク制度の活用など、行政による部局を越えた支援が急務である。
- ・産地直売の市場を求める声が強いが、漁獲量や交通アクセスを考えると、既存の道の駅等の常時の販売窓口の増設や学校給食への提供等、定期的定量的な販売ルートの構築により対応していくことが現実的ではないかと感じた。
- ・販路拡大にあたっては、山口都市核、湯田温泉、小郡都市核における事業者との連携が必要であると感じた。
- ・個人事業主でありながらも販路拡大や地域振興、次世代の育成などにも精力的に取り組まれており、移住政策や地域課題解決のモデルとして参考となる。
- ・若い世代と組合の熱意を感じた。
- ・大海の漁業者は、仕事に誇りとやりがいを持って生き生きとされ、移住者も仲間とし

て活躍して団結もあった。

- ・市内消費について行政が積極的に支援し、地域ブランド（特産品）として定着させることが他地域への売り込みに繋がると考える。

（２）－２（経済産業部水産港湾課所管）

- ・漁業振興策（新規就業者支援、販路拡大、市内消費、ブランド化等の取組）
- ・水産業振興・海洋資源活用事業
- ・海岸保全施設整備事業

（調査目的）

市が行う漁業振興策及び大海漁港周辺整備の取組について調査したものです。

（概要）

国、県と連携した新規就業希望者に対する研修生制度や支援策については、国の制度の対象者となる事業継承者についても県（市）の制度でカバーするなど受入れのための制度を充実させています。

販路拡大策としては、事業所（市役所）に対する注文販売、学校給食への食材提供、モクズガニ汁の商品化研究などに取り組まれています。また、山口県漁業協同組合大海支店におかれては、市の事業を活用したホームページの制作に取り組まれており、販路拡大時に事業者から求められる魚種や魚価の情報提供、事業者との連絡機能、消費者へのPR機能等を活用した新たな販路拡大の取組を進められています。

海岸保全施設整備事業については、高潮対策等として取り組まれているものであり、施工ルート未確定部分については、地元住民や漁業協同組合との調整に取り組まれているものです。

（主な所感）

- ・漁業振興策と施設整備に呼応する形での公共事業であらねばならず、関係者要望と現実の事業の隙間を埋める取組が必要と感じた。
- ・漁業者からの聞き取りの中では、施設整備のエリア内への市場の整備を求める声があることから施工ルート設定にあたって調整が求められる。
- ・水産業振興・海洋資源活用事業による種苗放流については、漁業者や市場、事業者を含む消費者の要求にマッチングした魚種の選定等、計画的な取組が必要。

(3) 畜産業と農業における市内での経済循環や流通システムについて

- ・ 飼料用トウモロコシの取組（現地視察含む）（経済産業部農林政策課所管）
- ・ 山口型放牧牛の取組とブランド化（現地視察含む）

(調査目的)

水稲にかわる作物として生産が進められている飼料用トウモロコシの生産現場に赴き、生産者及び市担当者からの説明により現状について調査したものです。

また、秋穂二島地域において実施されている山口型放牧牛の取組について調査したものです。

(概要)

飼料用子実トウモロコシ生産の取組は、9割を輸入（外国産）に頼る家畜の濃厚飼料を生産することで食料自給率の向上を図る国の施策を実践するもので、需要が大きい、作業時間が短い、圃場の有効活用ができる、土壌改良効果があるといったメリットから、市としても生産を奨励しているものです。

山口市子実コーン地域内循環型生産・出荷協議会を設立し、販路が確立されており、エサから山口市産として畜産物のブランド化にも寄与するものとされています。

山口型放牧牛の取組は、耕作放棄地の解消の実績のみならず、雇用の創出、地域住民との交流にも寄与され、ブランド化された肉用牛として飲食店（市内・県外）との連携により販路を確立されるなど先進的な取組を行われています。飼料用トウモロコシの出荷先ともなっており、エサの生産から流通まで地域内循環のシステムの確立に向けた取組を進められています。

(主な所感)

- ・ 飼料用トウモロコシの生産について行政によるさらなる支援の拡大の必要性を感じた。
- ・ 労働時間あたりの生産性が高く、市内において膨大な面積となっている耕作放棄地の有効活用が見込めることから飼料用トウモロコシの生産に目を付けたことは正しいと言えるのではないかと。
- ・ 非遺伝子組換え、国内産（市内産）の飼料として、食の安全を求める消費者の需要が見込める。
- ・ 現時点では、国の補助金がなければ成り立たない状況であり事業の大規模化、流通ルートの確保、販路拡大により自立した事業形態となれるかがカギである。付加価値をいかにつけるのか注目される。行政の的を射た支援策を探りたい。

- ・ 水稲に代わる作物として有効だが、作付及び収穫に必要となる大型で高価、使用期間が短い機械について課題であり対策が必要と考える。
 - ・ 今回の作付分は、天候不良と病害虫被害によって想定された収量が得られないとの実情を聞いた。生産から収穫までが軌道に乗り収穫量が増えるよう期待したい。
 - ・ 飼料用トウモロコシの生産は農家の人手不足解消に寄与するものである。今後、市内農業者に普及拡大するために行政の支援が必要である。
-
- ・ 休耕田を利用した放牧事業は低コストで農地の管理ができることもあり、未整備田地域においては有効な手法である。
 - ・ ストレスのない環境でのびのびと育った肉用牛、生産者の顔が見えるという付加価値によってブランドを確立し販路を獲得された先進的な事例である。
 - ・ 放牧によって地域住民の理解や交流が深まり、地域活性化へとつながっている。また、事業を拡大する中で、雇用の創出、担い手の確保にも成果をあげていることから、市内において山口型放牧牛の普及拡大を進める必要性を感じた。
-
- ・ 「手のかからない」「もうかる」農業・畜産業を目指す上で手がかかりとなる先進的な取組であると感じた。
 - ・ 市南部の農業法人は気候と規模という点で有利であるが、若い従業者の収入はどの程度であろうか。法人であっても後継者問題が深刻である。公的資金がなければ農業は成り立たず、地域を守っていく＝農業を守り発展させていくことである。



病害虫による食害を受けた飼料用トウモロコシの生産圃場で説明を受ける